



▲市内郵便局で新規口座を開設した人に配布されています。

## 安来に愛着が持てる通帳ケース

日本郵便株式会社と市役所の女性職員がデザインを考案した「安来市オリジナル通帳ケース」が完成し、新規利用者に配布されています。市と同社とが3月に締結した包括連携協定の一環として、両機関の職員が取り組んできたもの。通帳ケースのコンセプトは「安来に愛着が持てるデザイン」で、女性の視点で安来の魅力を広く伝えることができるよう手書き風のイラストを採用しています。

デザインを担当した秋山唯華さんは「地元の素材を組み合わせて安来らしい形ができました」、口田真美さんは「県外に出たときにはこの通帳を見て安来を思い出してほしい」とそれぞれ話していました。



## 笑顔あふれる「あめつち」歓迎

観光列車「あめつち」の運行が7月1日から開始され、安来駅では関係者や有志の皆さんによる歓迎が行われました。2両編成で全席指定の「あめつち」のコンセプトはネイティブ・ジャパニーズ。車両には山陰の自然や風土がデザインされ、内装には安来織や出雲織など山陰の伝統工芸が使われています。

午前9時に鳥取駅を出発した下り1番電車は11



まちの話題や出来事をご紹介します



観光列車「あめつち」のお出迎えに集まった皆さんを安来駅3番ホームで撮影。笑顔が安来流のおもてなしです。

今月の一枚



◀運行日には安来駅に11時15分と15時21分に到着し、約1分間停車します。

時15分に安来駅に到着。ホームでは安来節の衣装を着た「どじょうすくい出迎え隊」の皆さんをはじめ、関係者や観客など約50人が歓迎しました。停車中は安来節の曲に合わせてどじょうすくい踊りを披露。車窓からホームの様子を見た乗客は、安来流の歓迎に思わずニコリ。スマートフォンで撮影したり、お互いに手を振り合ったりしていました。

同車は、JRや島根・鳥取県などが展開する山陰デスティネーションキャンペーンに合わせて運行されています。土～月曜日を中心に年間150本運行予定で、鳥取＝出雲間を1日1往復します。



◀大会にはロケットの長さなどの規定があります。

## 飛べ！ペットボトルロケット

6月30日にペットボトルロケット社日大会が行われ、参加者は自作ロケットの飛距離を競いました。この日は社日小学校の児童18人が参加。社日ペットボトルロケット研究会の会員の指導を受けロケットの製作から行いました。児童は慣れない道具での作業に悪戦苦闘。それでも完成するとロケットを笑顔で見せ合っていました。

ロケットを打ち上げると、きれいな放物線を描いて飛び、良い記録が出ると参加者からは歓声が上がりました。

## 美味しいやすぎどじょうに育って

どじょう生産組合（西松井町）では毎年、ふ化させたドジョウの稚魚を生産者に引き渡し、安定した生産・出荷を促しています。6月7日には、同組合で稚魚を購入した15戸の生産者のうち、7戸の生産者へ約80万匹が引き渡されました。

生産者が持ち帰った体長約1センチの稚魚は各養殖池で生育した後、全国各地のドジョウ料理店等に出荷。どじょう生産組合では今年の生産目標を去年より多い4.5トンとしており、生産量の増加を見込んでいます。



◀稚魚を袋に入れる生産者（右）と仙田事務局長

## 歴史ある道をきれいに

「歴史街道を守る会」による広瀬清水街道の草刈りが6月26日に行われました。広瀬清水街道は広瀬藩主の参勤交代によって整備された道。旧広瀬町から宇賀荘町、清水町を経て門生町までを結びます。

この日は同会のメンバー15人で約1.5kmの距離を作業。毎年秋に行われるウォーキングのコースが整備されました。



▲草刈り等の整備は平成24年から毎年行われています。

同会の原忠史<sup>ただし</sup>会長は「地元の人でも広瀬清水街道を知らない人が多い。この活動を通して多くの人に行ってみたいと思われよう道にしたい。子どもにもウォーキングや課外活動を通して愛着を持つようになってほしい」と熱意を口にしていました。



▲多くの人が川沿いでホタルを楽しみました。

## 豊かな自然のシンボル・ホタル

初夏の訪れを告げる吉田ほたる祭りが今年も開催され、訪れた人は幻想的なあかりを楽しみました。6月9日のお祭り日には、市内外から多くの人々が来場。日が暮れるまでの間、地元の人々が用意したそうめん流しや地元特産品などに舌鼓み。20時頃には多くの人々が川沿いに移動し、飛び交うホタルに歓声を上げていました。

同祭りは今年で23回目。地区内を流れる吉田川を中心とした里山の環境を守る取り組みの一環として開催されています。